

取扱説明書

車載用 地上デジタルチューナー

品番 TU-DTX600

確
認

設
定

見
る

設
置
・
接
続

必
要
な
と
き

ご使用の前に、本書の「安全上のご注意」(に 4～7ページ)を必ずお読みいただき、安全にお使いください。

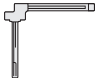
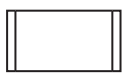
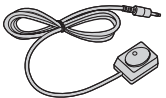
保証書別添付

このたびは、パナソニック車載用 地上デジタルチューナーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- 「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。
- 製造番号は、安全確保上重要なものです。
お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

商品構成一覧表 (取り付け前にご確認ください。)

本機には、次のものが同梱されています。設置、接続の前にご確認ください。
万一、足りない場合や破損していた場合は、すぐに販売店または購入先までご連絡ください。

☐ 本機・・・1 個 	☐ リモコン・・・1 個 	☐ 電源コード・・・1 本  長さ：約 37 ページ
☐ フィルムアンテナ [A]・・・2 枚 	☐ フィルムアンテナ [B]・・・2 枚 	☐ アンテナコード付アンプ・・・4 本  長さ：約 5 m
☐ クリーナー・・・2 個 	☐ mini B-CAS カード・・・1 枚 	
☐ コードクランパー・・・12 個 	☐ リモコン受信部・・・1 個 (固定用両面テープ 1 枚付き)  長さ：約 3 m	●付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。 ●この取扱説明書のイラストや画面はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

本機の特長

オート放送局サーチ機能搭載

- 視聴中に放送が映らなくなったとき、リモコンを操作しなくても自動で走行エリア付近の放送局をサーチします。(P.23ページ)
- 「ホーム」モード時
走行エリア付近の中継局をサーチします。
同一放送局であっても中継局によっては物理チャンネルが異なる場合があります。(P.24ページ)
 - 「おでかけ」モード時
走行エリア付近の中継局をサーチして、同一放送局がなければ同じ系列局(P.45ページ)の放送局を探します。
 - ・同じ系列局であっても別の番組を放送する場合があります。
 - ・系列局サーチでは、単一系列局エリアからクロスネット局(複数の系列に入っている放送局)エリアへ出入りするときは、クロスネット局が受け持っている、どれか一つの系列局しか引き継ぐことができません。尚、クロスネット局は、放送局一覧(P.30ページ)系列名で「クロスネット」と表示されます。
 - 電波の状態によっては、中継局や放送局のエリアを外れても、途切れ途切れに映り続ける場合があります。そのときは、手動で放送局サーチを行ってください。(P.24ページ)

もくじ

確認

- 商品構成一覧表／本機の特長 …… 2
- 安全上のご注意 …… 4
- 正しくお使いいただくために …… 7
- 各部のはたらき …… 10
- mini B-CAS カードの挿入 …… 12
- メニュー画面の操作と項目 …… 13

設定

- ご使用前の準備 …… 14
- アンテナの状態を確認する …… 15
- デジタルテレビ初期設定 …… 16
- チャンネルを変更する(ホームスキャン) …… 18
- おでかけ先のチャンネルを設定する(おでかけスキャン) …… 20
- 自宅周辺で見る／おでかけ先で見る …… 21
- 地上デジタルテレビ放送とワンセグの切り換えかたを設定する(受信モード) …… 22
- 受信できなくなったときに自動で放送局を探す(オート放送局サーチ) …… 23
- 独立データサービスチャンネルを選局するために(地上D選局対象) …… 23

テレビを見るには
ここから！

見る

- テレビ放送を見る …… 24
- 番組表からテレビ番組を見る …… 26
- データ放送を見る …… 28
- 複数の音声や映像・字幕・文字スーパーがあるとき(信号切換) …… 29
- 他の接続機器との音量を合わせる(音声レベル) …… 29
- いろいろな情報を見る …… 30
放送局一覧／mini B-CASカード情報／放送メール閲覧／ソフト情報／本機の情報
- お住まいの地域が変わったとき …… 33
- 個人情報を消去する …… 33

設置・接続

- 本機の設置と接続 …… 34
- アンテナ／電源の接続と配線 …… 36
- 機器との接続 …… 37
- アンテナの取り付けかた …… 38

必要なとき

- データ放送の番組内で文字を入力する …… 42
- 地上デジタル放送チャンネル一覧表 …… 44
- 独立UHF局および系列局一覧 …… 45
- 故障かな!? …… 46
- アイコン一覧 …… 48
- メッセージ表示一覧 …… 48
- 仕様 …… 49
- 保証とアフターサービス …… 50
- さくいん …… 裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気をつけていただく内容です。



警告

必ず規定容量のヒューズを使用する
また、交換は専門技術者に依頼する



規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や発煙・発火、故障の原因になります。ヒューズの交換や修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの「サービス相談窓口」にご依頼ください。



禁止

運転や視界を妨げたり、同乗者に危険をおよぼす場所には、絶対に
取り付けない

運転に支障をきたす場所(シフトレバー、ブレーキペダル付近など)、前方・後方の視界を妨げる場所、同乗者に危険をおよぼす場所への取り付けは、交通事故やけがの原因になります。

取り付けには車両の保安部品のボルトやナットを絶対に使用しない



禁止

ステアリングやブレーキなどの保安部品のボルトやナットを使用して取り付けたら、事故の原因となります。



禁止

運転者は走行中に操作をしない
また、画像・表示を注視しない

走行中の操作や画像・表示の注視は、前方不注意による交通事故の原因になります。必ず安全な場所に停車し、サイドブレーキを引いた状態でご使用ください。

車のパイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認して取り付ける



車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線に干渉や接触しないようにしてください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を施してください。火災や感電、事故の原因になります。



コード類は、運転や乗り降りの妨げにならないように引き回す

ステアリング・シフトレバー・ブレーキペダル・足などに巻き付かないように引き回し、まとめたり固定しておくなどしてください。事故やけがの原因になります。

取り付け・配線後は、車の電装品が正常に動作することを確認する



車の電装品(ブレーキ、ライト、ホーン、ハザード、ウinkerなど)が正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、事故の原因になります。



DC12Vマイナス⊖アース車で使用する

DC12 Vマイナス⊖アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車(DC24 V車)には使用できません。火災や故障の原因となります。



警告

故障や異常のまま使用しない



禁止

煙が出る、変なにおいがする等の異常な状態で使用すると発火などの原因となります。

●直ちに使用を中止してお買い上げの販売店にご相談ください。

分解や改造はしない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。

●内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したらアンテナ線やテレビには触れない



接触禁止

感電の原因となります。

コードクランパーなどの小物部品は、乳幼児の手の届くところに置かない



禁止

あやまって、飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

機器内部に水や異物を入れない



禁止

内部に金属物や燃えやすいものなどが入ると、動作不良になるばかりでなく、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や発煙・発火、感電の原因となります。飲み物などがからないようにご注意ください。

使用しないコードの先端などは、絶縁する



被覆がない部分が車の金属部に接触しないように、テープなどで絶縁してください。ショートにより火災や感電の原因になります。

リモコンを放置しない



禁止

運転中に足もとに転がってブレーキペダルなどの下へ入り込むと、運転を妨げて交通事故の原因になります。

指示に従って正しく配線・取り付けを行う



説明書に従って正しく配線・取付をしないと火災や事故の原因となります。

大きな音量で使用しない



禁止

車外の音が聞こえない状態での運転は、交通事故の原因になります。

配線・取り付け作業中は、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしておく



バッテリーのマイナス⊖端子をつないだまま配線・取り付け作業をすると、ショート事故による感電やけがの原因になります。

メモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かない



禁止

誤って飲み込む恐れがあります。

●万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付け・配線しない



禁止

エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機や部品が飛ばされ、事故やけがの原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

安全上のご注意

必ずお守りください



警告

アンテナは、はり付許容範囲内に取り付ける



国土交通省の定める保安基準に適合する位置・寸法(はり付許容範囲内)にはり付けないと、道路交通法違反となります。
はり付許容範囲内については、本書の「はり付ける位置について」をご覧ください。



注意

本機の通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。



禁止

車載用以外には使用しない

車載用以外(例えばレジャーボートやアウトドアなど)に使用すると、発煙・発火、感電やけが、故障の原因になる場合があります。

配線・取り付け／取りはずしは、専門技術者に依頼する



取り付けと配線は、専門技術と経験が必要です。

●安全のため、お買い上げの販売店にご依頼ください。



禁止

高温になる場所などに取り付けない

直射日光やヒーターの熱風などが直接あたると内部温度が上昇し、火災や故障の原因になることがあります。



禁止

振動の多いところや不安定な場所に取り付けない

傾いた場所、強い曲面などに取り付けると、走行中にはずれる・落下するなど、事故やけがの原因になることがあります。

必ず付属品や指定の部品を使用する



指定以外の部品を使用すると、機器の内部を損傷したり、しっかりと固定できずにはずれるなど、事故や故障、火災の原因になることがあります。

コードをかみ込ませたり、引っ張ったり傷つけない



禁止

ショートや断線により、発火や故障の原因となることがあります。



禁止

水のかかる場所や湿気・ほこり・油煙の多い場所に取り付けない

雨や洗車などで水がかかったり、湿気・ほこり・油煙などが入ると、発煙・発火、感電、故障の原因になることがあります。



リモコンは直射日光・高温の場所を避けて保管する

ケースの変形、内部電池の破裂、液もれの原因になることがあります。

安全上のご注意

必ずお守りください



注意

電池は正しく使う



禁止

破裂や液もれにより、火災やけが、周囲を汚染する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は、使用しないでください。
- 充電・分解・加熱をする、火や水の中に入れる、金属物と接触させるなどしないでください。
- 著しく温度が高くなる場所(直射日光のあたるところ、ヒーターの近く、窓を閉め切った車や車のトランクの中など)に、電池や電池の入ったリモコンなどを放置しないでください。



- 電池の⊕と⊖を、電池ケースの表示に合わせて入れてください。
- 使い切った電池は、すぐに交換してください。
- リモコンを長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 電池を保管するときは、テープなどで絶縁してください。

電池を廃棄する場合は

各自治体の指示(地域の条例)に従って処理してください。

電池の液もれが発生した場合の処理について

- 電池ケースについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。
- 液が身体や衣服に付着したときは、きれいな水でよく洗い流してください。
- 万一、目に入ったときは、こすらずにきれいな水で洗い流したあと、すぐに医師にご相談ください。

正しくお使いいただくために

- デジタル放送では受信状態が悪くなると、映像のブロックノイズ、音声途切れの発生や静止画面、黒画面となり音声が出なくなることがあります。
- 車で移動して受信するため、家庭用に比べて受信可能エリアが狭くなります。また、車の場所や方向、速度などにより受信状態が変化します。
- 本機の受信周波数帯域に相当する周波数を用いた携帯電話などの機器を、本機やアンテナコードに近づけると、その影響で映像・音声などに不具合が生じる場合があります。それらの機器とは離してご使用ください。
- コピーガードがかかっている番組は録画機器を経由してテレビで視聴すると正常に受信できない場合があります。コピーガードがかかっている番組を視聴する場合は、録画機器を経由しないで直接、本機とテレビを接続してください。

取り扱いについて

- エンジンをかけてご使用ください。
エンジンを止めた状態で長時間使用すると、バッテリーが消耗します。
- 衝撃を与えないでください。
本機を落下させる、たたくなどして衝撃を与えると、故障の原因になります。
- リモコンを落としたり、踏みつけたりなど衝撃を与えないでください。
無理な力をかけると部品がこわれ、故障の原因となります。
- 他の機器と接続する場合は……
接続する機器の取扱説明書もよくお読みになり、正しく配線してください。

正しくお使いいただくために（つづき）

設置について

- 次のところには、取り付けないでください。
水のかかるところ、足でふまれるところ、およびヒーターのダクトなど温風の近くや、カーペットの下などの熱がこもるところ、直射日光のあたるところ。
- 本機の通風孔をふさがない水平な場所に設置してください。
逆さや縦向きには設置しないでください。
- リモコン受信部をフロントガラスや保安部品*の動作および確認を妨げる場所に設置しないでください。
これらの場所にリモコン受信部を設置すると、保安基準に適合できません。
※バックミラー、計器類、ホーンボタン、エアバックなど。

mini B-CAS カードの取り扱い

- mini B-CAS カードを挿入しないとデジタル放送の受信ができません。
- ダッシュボードの上など、高温になるところにカードを放置しないでください。
- 利用許諾契約約款をよくお読みの上、使用者ご自身でパッケージを開封し、カードを機器に正しく挿入してください。
- 同梱のmini B-CAS カードは地上デジタル専用です。BS/110度CS デジタル放送対応受信機には使用しないでください。

免責事項について

- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により損害が生じた場合、原則として有料での修理とさせていただきます。
- 本機の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損失、記憶内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いかねます。
- 商品に添付の保証書は、本機を業務用の車両(バス・タクシー・商用車など)に使用した場合、適用対象にはなりません。
- 他人に譲渡または処分などされる際は、プライバシー保護のため本機に入力した個人の情報管理や消去は、必ずお客様の責任において行ってください。当社は一切の責任を負いかねます。
- お客様または第三者が本機の使用を誤ったとき、静電気・電氣的なノイズの影響を受けたとき、基本プログラム等が変化・消失した場合の補償はできません。
- お客様または第三者が本機の使用を誤ったとき、静電気・電氣的なノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に登録されていた情報が変化・消失した場合、その内容の補償はできません。
- 万一、本機の不具合により、録画できなかった場合の補償についてはご容赦ください。
- メールなどのデジタル放送に関する情報は、本機が記憶します。万一、本機の不具合によって、これらの情報が消失した場合、復元は不可能です。その内容の補償についてはご容赦ください。

著作権など

- 本機は、著作権保護技術を採用しており、ロヴィ社及びその他の著作権者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、ロヴィ社の許可が必要で、また、ロヴィ社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
- 本機は、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為に係る個人使用を除いてはライセンスされておりません。
 - ・ AVC規格に準拠する動画(以下、AVC ビデオ)を記録する場合
 - ・ 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオを再生する場合
 - ・ ライセンスをうけた提供者から入手されたAVC ビデオを再生する場合詳細については米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。
- 国外で本機を使用して有料放送サービスを享受することは、有料サービス契約上禁止されています。
- 本機はARIB(電波産業会)規格に基づいた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。
- あなたがビデオデッキなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
- 各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

著作権など

本製品は以下の種類のソフトウェアから構成されています。

- (1) パナソニック株式会社が独自に開発したソフトウェア
- (2) 第三者が保有しており、別途規定される条件に基づきパナソニック株式会社に利用許諾されるソフトウェア
- (3) GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2(GPL v2)に基づき利用許諾されるソフトウェア
- (4) GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1(LGPL v2.1)に基づき利用許諾されるソフトウェア
- (5) GPL, LGPL 以外の条件に基づき利用許諾されるオープンソースソフトウェア

上記(3)、(4)に基づくソフトウェアに関しては、例えば以下で開示される GNU GENERAL PUBLIC LICENSE V2.0, GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE V2.1 の条件をご参照ください。
<http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html>
<http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html>

また、上記(3)、(4)に基づくソフトウェアは、多くの人々により著作されています。これら著作者のリストは以下をご参照ください。
<http://www.am-linux.jp/dl/JPCAR30>

これら GPL, LGPL の条件で利用許諾されるソフトウェア(GPL/LGPL ソフトウェア)は、これら単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。

製品販売後、少なくとも3年間、パナソニック株式会社は下記のコンタクト情報宛にコンタクトしてきた個人・団体に対し、GPL/LGPL の利用許諾条件の下、実費にて、GPL/LGPL ソフトウェアに対応する、機械により読み取り可能な完全なソースコードを頒布します。

コンタクト情報
cdrequest@am-linux.jp
またソースコードは下記の URL から自由に入手できます。
<http://www.am-linux.jp/dl/JPCAR30>

This product incorporates the following software:

- (1) the software developed independently by or for Panasonic Corporation,
- (2) the software owned by third party and licensed to Panasonic Corporation,
- (3) the software licensed under the GNU General Public License, Version 2 (GPL v2),
- (4) the software licensed under the GNU LESSER General Public License, Version 2.1 (LGPL v2.1) and/or,
- (5) open sourced software other than the software licensed under the GPL v2 and/or LGPL v2.1

For the software categorized as (3) and (4), please refer to the terms and conditions of GPL v2

and LGPL v2.1, as the case may be at

<http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html> and

<http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html>.

In addition, the software categorized as (3) and (4) are copyrighted by several individuals. Please refer to the copyright notice of those individuals at

<http://www.am-linux.jp/dl/JPCAR30>

The GPL/LGPL software is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY, without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

At least three (3) years from delivery of products, Panasonic Corporation will give to any third party who contact us at the contact information provided below, for a charge no more than our cost of physically performing source code distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code covered under GPL v2/LGPL v2.1.

Contact Information

cdrequest@am-linux.jp

Source code is also freely available to you and any other member of the public via our website below.

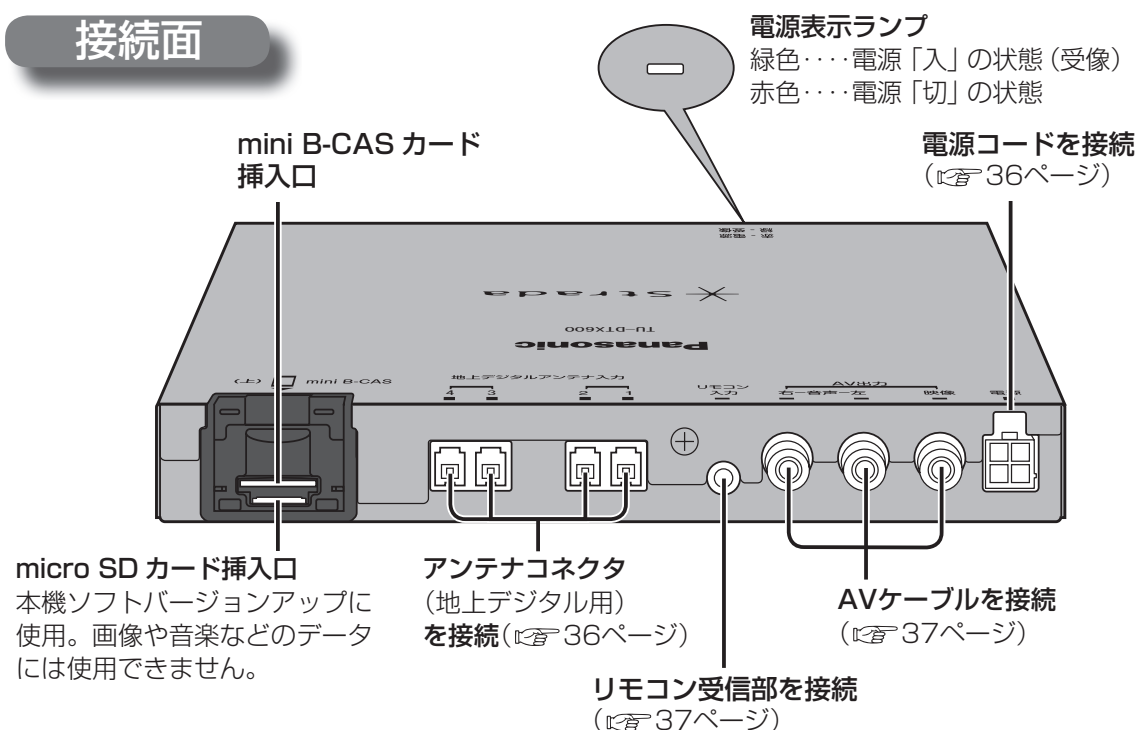
<http://www.am-linux.jp/dl/JPCAR30>

各部のはたらき

確認

各部のはたらき

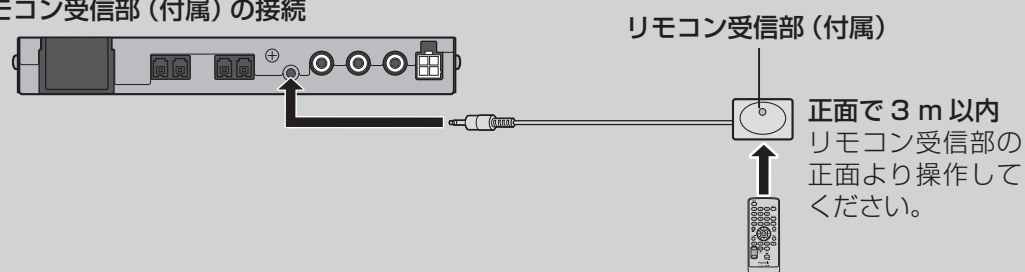
接続面



お願い

- リモコン受信部に直射日光や強い照明があたると、リモコンの動作が鈍くなります。リモコン受信部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコン受信部とリモコンの間に物を置かないでください。
- リモコン受信部は指向性が強いので、傾けると動作しにくくなります。リモコン受信部の正面より操作してください。

■リモコン受信部(付属)の接続



■お手入れについて

キャビネットをいためないために次の点にお気をつけください。

- 殺虫剤、ベンジン、シンナーなど揮発性のものをかけないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。
- ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。跡がつくことがあります。
- 汚れは柔らかい布でふきとってください。汚れがひどいときは、水で薄めた台所用洗剤(中性)に浸した布をかたく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

リモコン

電源を「入」「切」する

チャンネルを選ぶ(選局)
 (☞ 24ページ)、設定画面で数字を入力する

データ放送の画面を表示する

メニューを表示する、終了する

画面上で指示が出たときに使う(カラーボタン)

チャンネルを順番に選ぶ(選局)
 (☞ 24ページ)
 △を1秒以上押し、おでかけ初期スキャンを行う(☞ 20ページ)
 ∇を1秒以上押し、おでかけ再スキャンを行う(☞ 21ページ)

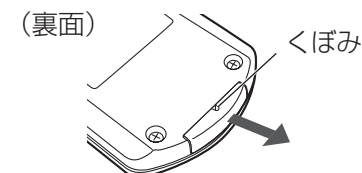
プリセットモードを切り換える
 ・ホーム：自宅周辺でのチャンネル
 ・おでかけ：旅行先などでのチャンネル

■リモコンの電池の交換方法

1

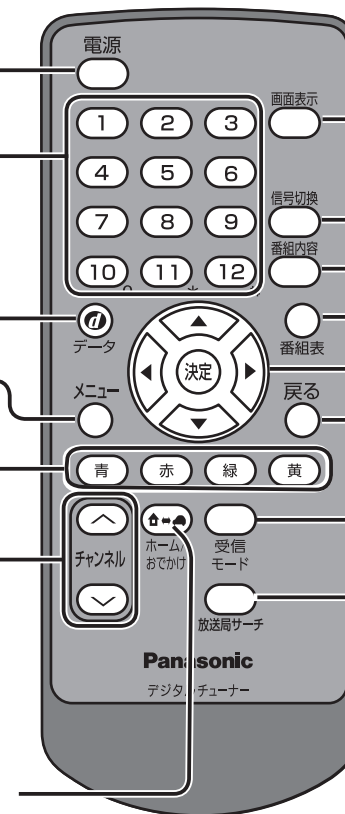
電池ケースを引き出す

電池ケースのくぼみに、ボールペンの先などで押しつけながら、矢印の方向へ押し引き抜きます。



お願い

- リモコンを紛失しないようご注意ください。
- 落としたり、衝撃を与えたり、足で踏んだりしないでください。(部品がこわれ、故障の原因となります)
- リモコンに水などをかけないでください。
- リモコンをテレビの近くで操作してもはたらかないときは、電池(品番:CR2025またはCR2025P)を交換してください。



見ている番組のタイトルなどを表示する(☞ 25ページ)

複数の映像、音声がある番組などの信号を設定する(☞ 29ページ)

番組内容を表示する(☞ 25ページ)

番組表を表示する(☞ 26、27ページ)

画面上で選択や決定を行う

1つ前の画面に戻す

地上デジタルテレビ放送とワンセグを切り換える(☞ 22ページ)

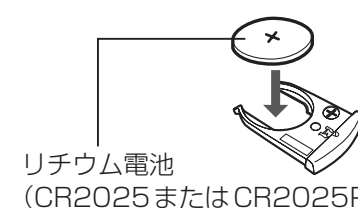
プリセットモード「ホーム」時: 同じ放送局の中継局を探して切り換える(☞ 24ページ)

プリセットモード「おでかけ」時: 同じ放送局の中継局、または系列局を探して切り換える(☞ 24ページ)

2

電池を入れる

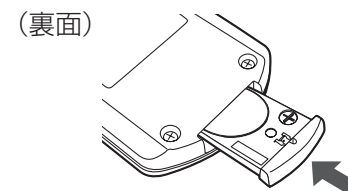
プラス側(+)を上にして入れます。(プラス+とマイナス-を確かめて正しく入れます)



3

電池ケースを差し込む

電池ケースを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



確認

各部のはたらき

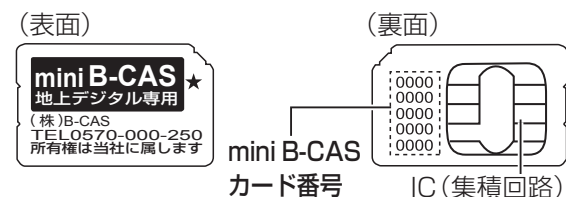
ミニ B-CAS カードの挿入

- カードおよび台紙に記載の文面をよくお読みのうえ必ず挿入してください。
- mini B-CASカードを挿入しないと地上デジタル放送が視聴できません。
- 「使用許諾契約約款」をよくお読みください。

地上デジタルテレビ放送は、放送番組の著作権保護のため、2004年4月からコピー制御信号を加えて放送されています。その信号を有効に機能させるためにmini B-CASカードが必要です。

mini B-CAS カードについて

- 台紙に添付されています。
※台紙をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- デジタル放送の視聴のために必要なカードです。



- mini B-CASカードを管理するための大切な番号です。問い合わせの際にも必要です。裏表紙のID番号記載欄にメモしておいてください。

mini B-CASカード取り扱い上の留意点

- ・折り曲げたり、変形させない。
- ・重いものを置いたり踏みつけたりしない。
- ・水をかけたり、ぬれた手でさわらない。
- ・IC(集積回路)部には手をふれない。
- ・分解加工は行わない。
- ・BS/110度CSデジタル放送対応受信機には使用しない。
(同梱のmini B-CASカードは地上デジタル専用です。)

mini B-CASカードについてのお問い合わせ

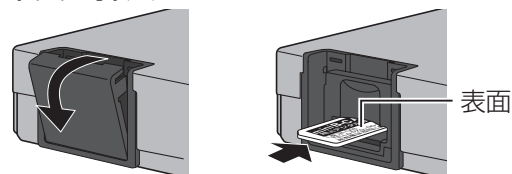
(故障交換や紛失時など)は
(株)ビーエス・コンディショナルアクセス
システムズ カスタマーセンター
TEL 0570-000-250

お願い

カードの不具合と確認された場合は、お客様よりカスタマーセンターにお問い合わせください。修理センターなどでカード交換を行った際発生した作業工賃などの費用は、お客様のご負担となります。

入れかた

- 1 車のキースイッチを「OFF」にする
- 2 カバーを外し、mini B-CASカードを奥まで(「カチッ」と音がするまで)確実に挿入する

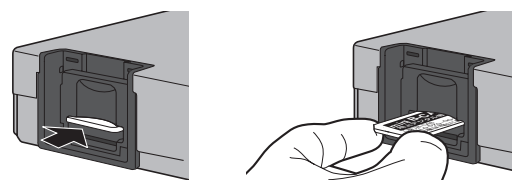


3 カバーを取り付ける

- mini B-CASカードのテストをするときは
([P.31](#)ページ「mini B-CASカードの番号などを見る」)

取り出しかた

- 1 車のキースイッチを「OFF」にする
- 2 カバーを外し、mini B-CASカードを押して、出てきたカードを取り出す

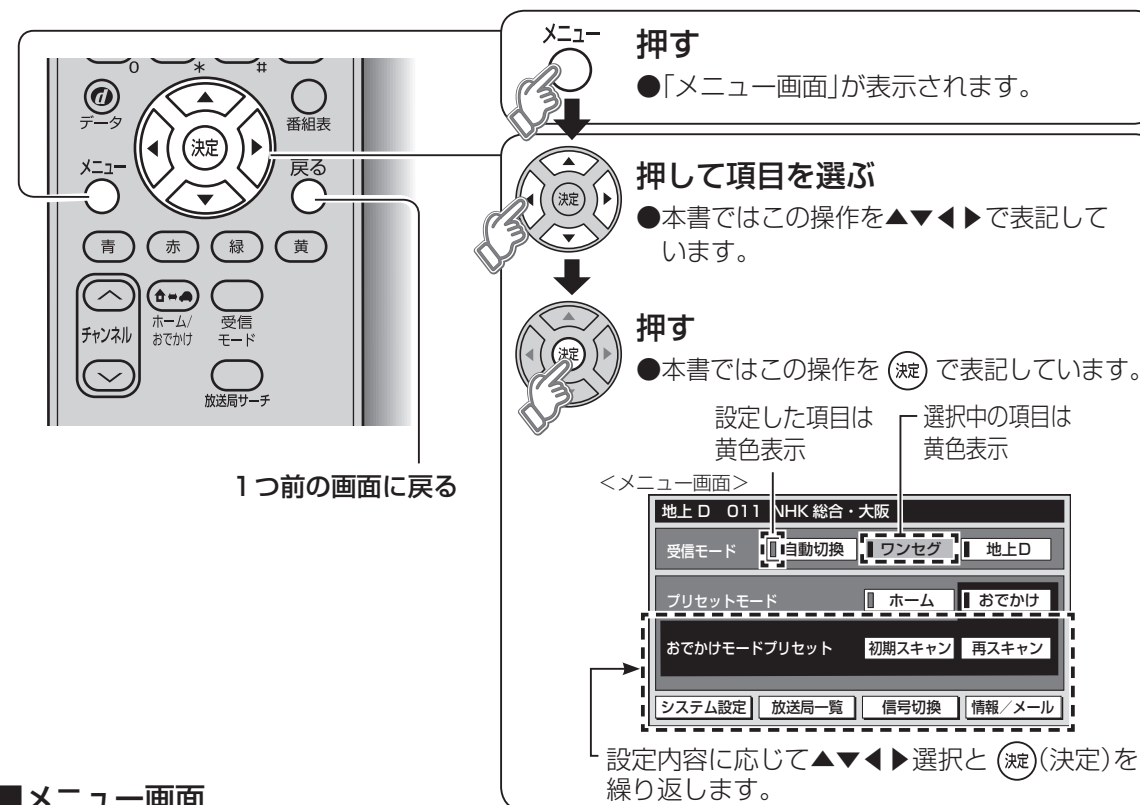


3 カバーを取り付ける

- mini B-CASカード以外のものを挿入しないでください。故障や破損の原因となります。
- ご使用中は抜き差ししないでください。視聴できなくなる場合があります。
- mini B-CASカードには、IC(集積回路)が組み込まれているため、画面にメッセージが表示されたとき以外は抜き差ししないでください。
- mini B-CASカードを抜き差ししたときは、3秒以上経ってから、B-CASカードテストを行ってください。(P.31ページ)
- カバーは取り外しができますので紛失にご注意ください。

メニュー画面の操作と項目

画面で確認しながら設定や放送メールなどの情報を見ることができます。



■メニュー画面

